

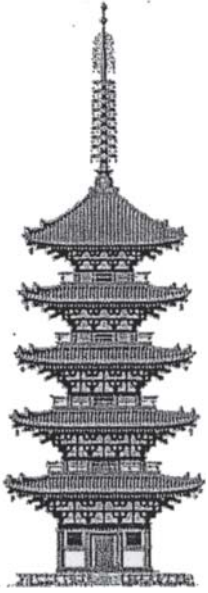
弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



あけましておめでとうございませす。足かけ十二年目に入ったかわら版。今年もどうぞよろしくお願ひします。今年のテーマは**最澄と空海の時代**。今月はその**時代背景**についてです。

★聖武天皇

壬申の乱(六七二年)を経て**天智天皇**を継承した**天武天皇**。その後、**持統(天武天皇の皇后)**、**文武、元明**と続きました。

その間、都も近江国の**大津宮(天智)**、大和国の**飛鳥浄御原宮(天武)**、**藤原京(持統・文武)**、**平城京(元明)**と遷都。

平城京遷都(七一〇年)が奈良時代の始まりです。**元明天皇**の次は**元正天皇**。いずれも**女帝**でしたが、その次に**男帝の聖武天皇**が即位。**奈良時代は聖武天皇(在位七二**

四七四九年の頃が**最盛期**。**最澄(七六六〜八三二年)**と**空海(七七四〜八三五年)**が生まれる少し前のこと。



■伝教大師最澄 (766〜832年)

■弘法大師空海 (774〜835年)

昨年のかわら版でお伝えした**役行者、行基、鑑真**が活躍した時代です。

★国分寺・国分尼寺

唐に対して初めて**日本**という国号が使われたのは**七〇一年**。奈良時代は**国家の体裁**が整えられつつあった時期ですが、**聖武天皇**はとりわけ**中央集権的な体制**づくり

腐心しました。仏教に対しても例外ではなく、**全国に国分寺・国分尼寺**をつくり、各地の豪族を**帰依**させて**管理体制**を強化しようとした。平城京には**総国分寺**として**東大寺**を創設。そして、その象徴として**大仏**建立を計画し、その**責任者(勸進聖)**に行基が任命されました。

大仏開眼(七五二年)の翌年、正しい**戒律**を伝えるために、苦難の末に**来日**したのが**鑑真**です。僧尼が守るべき**戒律**を授けることを**授戒**、授かることを**受戒**、授受戒のための施設を**戒壇院**と言います。当時の日本には授戒のできる僧がおらず、**戒壇院**もありませんでした。

鑑真が**東大寺**に**戒壇院**をつくり、正式の授受戒が始まりました。

★南都六宗

当時の平城京には、**南都六宗**という六つの宗派がありました。**三論宗、法相宗、華嚴宗、律宗、成実宗、俱舍宗**の六つです。

いずれも朝廷公認であり、言わば**国家仏教**。宗派の依拠する**経典**の内容を学ぶ**学問仏教(教義仏教)**であり、**東大寺**を拠点に活動していました。国家仏教として**保護**を受けていたことが、僧尼の**緩みと墮落**につながったほか、**南都六宗**は政治と

も深く関わるようになりました。そうした流れの中で発生したのが**道鏡事件**。僧の**道鏡**は**女帝の称徳天皇(在位七六四〜七七〇年)**と親しい仲となり、自ら皇位に就くことを意識したと言われています。結局、**道鏡**は**和氣清麻呂**らによって**肅清**されました。

★桓武天皇

称徳天皇の次は**光仁天皇(在位七七〇〜七八一年)**、その次は**桓武天皇(在位七八一〜八〇六年)**。最澄の後ろ盾となった**天皇**です。桓武天皇は、腐敗した**奈良仏教**と一線を画すために**長岡京遷都(七八四年)**を断行。

ところが、遷都責任者の**藤原種継**が暗殺され、犯人の嫌疑をかけられた**天皇の弟の早良(さわら)**親王も抗議の断食の末に**逝去**。

桓武天皇の周りには**不吉なこと**が頻発したことから、**和氣清麻呂**の進言を受け入れて**平安京遷都(七九四年)**。以後、**平安時代**に入ります。

そんな時期に**最澄**と**空海**は**幼少時代**を送りました。

★最澄と空海の幼少時代

来月は**称徳期**に生まれた**最澄**、**光仁期**に生まれた**空海**。それぞれの**幼少時代**をお伝えします。乞ご期待。

